

思いをストレートに

「反応はしてよ。わかったかどうかわからないからね。」

「マスクしているせいか、みんなの表情がわからないから大げさに反応してよ。」

準備登校の時から数え、授業が始まって数日が経ちました。今日午前中の授業を参観していたときに授業者の二人が同じことを生徒たちに語っている場面に出くわしました。

授業はスムーズに進んでいるようですが、一つ気になるのは生徒の皆さんが実に静かだということ。二ヶ月間の休校、出会ったばかりの仲間や教師ということを考えればわからなくもないですが、それにしても大きく響くのは教師の声ばかり。教師が笑わせようとしても、期待した笑いが返ってこない静かな授業もありました。

しかし、やる気は感じます。新しいクラスで、新しい仲間と頑張っていきたいという前向きな気もちを生徒たちはもっています。生徒たちも休校が長くなって、例年と同じようにやっていてはいけないとわかっていようです。視線や姿勢から、私はそれをひしひしと感じます。

騒がしくなることを勧めているわけではありません。周りをはばからないつぶやきがふえることを望んでいるわけではありません。私が期待したいのは、思いをストレートに出すことができる力です。

辺りの様子をうかがって自分の行動を決めたり、先のことを心配する余り必要以上に臆病になったりする自分を、このコロナ禍（か）をきっかけにして変えてほしいと願っています。

生徒たちは恐らく知らないでしょうが、「へこにす」という言葉が東濃弁にあります。私は幼い頃、ことあるごとに「へこにすになるな」と死んだ祖母からたたき込まれました。今でもタイムリーにその言葉が蘇ってきます。生徒の皆さんには私が贈ります。「やる気をもっていてもそれが出せないへこにすになるなよ」と。

（六月二日 記）